

2013 年度

国際山岳医および国内山岳医講習会

**UIAA/ ICAR /ISMM Diploma
in Mountain Medicine**

募集要項

主催：一般社団法人日本登山医学会



認定：

JSMM(日本登山医学会)

UIAA Medcom(国際山岳連盟医療部会)

ICAR Medcom(国際山岳救助委員会医療部会)

ISMM(国際登山医学会)

後援：

公益社団法人 日本山岳協会

(独立行政法人) 日本スポーツ振興センター 国立登山研修所



Certificate for Courses in Mountain Medicine

This is to certify that the courses in Mountain Medicine organised by:

Japanese Socceity of Mountain Medicine

are in accordance with the minimum requirements of the Medical Commissions of Union Internationale Des Associations D'alpinisme (UIAA) and International Commission for Alpine Rescue (ICAR), and the International Society for Mountain Medicine (ISMM). The organisation is entitled to use the UIAA, ICAR and ISMM logos for their courses for two years from May 2010, and award the title *UIAA/ICAR/ISMM Diploma/Certificate in Mountain Medicine* to successful candidates as set out in the Diploma in Mountain Medicine regulations agreed in Aviemore, Scotland in October 2007.

Signed:

Dr Buddha Basnyat M.D.
President
UIAA Medcom

Dr Fidel Elsensohn M.D.
President
ICAR Medcom

Dr Marco Maggiorini MD
President
ISMM

国際山岳医制度Diploma in Mountain MedicineはUIAA Medcom（国際山岳連盟医療部会）により1997年に制定された国際山岳医制度です。現在では、UIAA/ISMM（国際登山医学会）/ICAR（国際山岳救助委員会）が認定する国際的なDiplomaに発展しています。目的は山岳医学の臨床および研究を、あらゆる面において実践出来る医師を養成することです。現在オーストリア、ドイツ、英国、フランス、イタリア、スイス、スペインの登山医学会がその運営を行っています。上記certificateにあるように、この日本登山医学会の組織するプログラムは上記3組織が認定する国際山岳医条件を満たしていると判断されました。必要な講習過程を終了し、すべての試験に合格すれば、上記各国のそれと同等の国際資格（UIAA/ISMM/ICAR Diploma in Mountain Medicine）が取得出来る制度が日本にも2010年度に発足したことになります（2010年5月記）。

I 目的

山岳医学の臨床および研究をあらゆる面において実践出来る医師を養成することを目的とします。山岳地帯で発生しうる疾病および外傷の理論と実践について学びます。そのためには山岳環境そのもの、およびそこで起こる生理学的変化を理解する必要があります。また山岳地帯へ至るまでの旅行医学の知識も要求されます。さらに山岳環境でのサバイバルやレスキューの技術も体得しなければなりません。

II 募集対象

日本登山医学会会員である医師がエントリーできます。それ以外の方の聴講は、各クラスタ責任者が許可した場合に限り、認めることがあります。2013 年度は、希望が多かったことを鑑み、ハケ岳クラスタを除く各クラスタへの個別参加を日本登山医学会会員である看護師に限り許可いたします（各クラスタの受講料は必要ですが、コース全体の応募申請時に必要な受講登録料は不要です）。

登山経験の乏しい参加希望者は、事前に各種山岳団体や山岳ガイドなどによる登山技術講習や救助技術講習を受けておくことを推奨します。このプログラムには“山岳技術講習”は含まれません。国際山岳医に合格するためには、最終ページに付記した技術基準を余裕をもって実践できることが必要ですし、国内山岳医に合格するためには、技術基準の内容を十分に理解し経験していることが必要です。国際山岳医希望者はこれらの基礎的山岳技術を備えていないと、立山クラスタ（夏山）やハケ岳クラスタ（冬山）などの登山救助技術の実技試験に合格することは困難です。また、山岳地帯で余裕を持って行動できる体力も必要です。

III 2012 年度以降の改訂点

2010 年 5 月にスタートした日本のプログラムは、上記の certificate にあるように、2007 年 10 月スコットランドの Aviemore での UIAA/ISMM/ICAR 合同会議において定められた regulation に則り作成されていました。さて、2010 年 8 月ペルーの Arequipa で行われた同合同会議では、DiMM 履修内容に関する新たな regulation が採択されました（これからも山岳医療の進歩による version up が予想されます）。よって日本でも 2012 年度からは新 regulation に基づきかつこの 2 年間の日本での経験を踏まえて、以下のようにプログラムを改訂しています。

1. 「実践山岳外傷学」クラスタを新設する（国際・国内共通）。
2. 「高所」「低体温症」「凍傷」に関する講義・実習時間を増やす（国際・国内共通）。

3. 「遠征・野外活動医学コース（40 時間）」を「高所登山トレッキング医学・山岳救助実践クラスタ（12 時間）」として改組し、国際山岳医希望者の必須クラスタとする。

4. 実技試験については、国際山岳医と国内山岳医とで異なる合格基準を設ける。

2012 年度からエントリーされる方はこの新プログラムを履修していただきます。2011 年度以前にエントリーされた方は、旧募集要項に示されたすべての課程を終了すれば当該資格取得が可能です（もちろん新しく加わったコースやクラスタを受講する権利もあります）。

5. 2012 年度より日本登山医学会主催の DiMM 札幌クラスタを日本登山医学会会員が聴講することを認めました。エントリーする資格のある会員で、国際山岳医制度または国内山岳医制度にエントリーされていない方が受講された場合、受講後 1 ヶ月以内にエントリーし札幌クラスタ所定の事後課題に合格された場合に限り、2013 年度札幌クラスタ受講を有効単位とすることができます。

6. 2013 年度は、日本登山医学会会員である看護師に限り、ハヶ岳クラスタを除く各クラスタへの個別参加が可能です（各クラスタの受講料は必要ですが、コース全体の応募申請時に必要な受講登録料、10000 円は不要です）。

IV 理念

なお、国内山岳医および国際山岳医の理念は以下の通りです。

1. 日本登山医学会認定国内山岳医：国内山岳医は、高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する専門知識を有し、山岳地帯で発生する疾病および外傷の臨床を実践できる医師である。具体的には日本登山医学会が規定する山岳医プログラムの受講および実技試験の合格が必要である。（冬期登山技術や凍傷、低体温症、雪崩の実習は必修とするが、実技の合否判定は行なわない）

2. 日本登山医学会認定国際山岳医：国際山岳医は、高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する高度な医学知識のみならず、山岳環境でのサバイバルやレスキューに関する十分な技術、すなわち、山岳救助関係者と共に活動ができ、万一の場合には単独で行動し安全に下山できるレベルの登山技術が求められる。具体的には、UIAA/ISMM/IKAR の認定条件を満たす日本登山医学会認定の山岳医プログラム全ての受講および実技試験の合格が必要である。

V コース概要

一般教程

1. 宇都宮クラスター 山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ、高所 2013/5/18, および 5/19 または 10/27
2. 立山クラスター 登山技術実技実習夏季、沢登りなど 2013/7/13, 14, 15
3. 松本クラスター 実践山岳外傷学 2013/8/3, 4
4. 東京クラスターⅠ 基礎理論学習 2013/9/28, 29
5. 東京クラスターⅡ 高所登山トレッキング医学・山岳救助実践 2013/11/17
6. 八ヶ岳クラスター 登山技術実技実習冬季など 2014/1/18, 19, 20
(国際山岳医希望者は、立山クラスターの国際山岳医レベルでの合格が必要条件。国内山岳医希望者は、立山クラスターの国内山岳医レベルでの合格が必要条件。)
7. 札幌クラスター 救助技術と山スキー、スノーシュー 2014/ (未定)

国際山岳医の一般教程は、全部で 125.75時間になります。上記の教程から無雪期山岳スポーツ、沢登り、登山技術実技実習冬季、アイスクライミング、救助技術総論および実践、山スキー・ボード・スノーシュー、東京クラスターⅡを除く教程すべての終了試験に合格した講習生には、「日本登山医学会認定国内山岳医・認定証」を授与されます。「国内山岳医」合格のための夏山登山技術の実技合格基準は、国内の山岳事情に沿った基準です。「国内山岳医」取得者が「国際山岳医」資格を希望する際は、立山クラスターを再受講し、国際山岳医レベルの夏山登山技術および上記の免除科目を受講、合格する必要があります。

VI <2013 年-2014 年のプログラム (予定)>

国内山岳医のみを希望される受講生は黒字で記載された科目の履修のみが必要で、赤字で記載された科目を履修する必要はありません。将来国際山岳医も希望する予定があれば履修可能です。また 2012 年度のプログラムは、欧州 DiMM の新カリキュラムに沿った変更があります。2011 年度以前から受講されている受講生は、自分の履修状況と 2012 年度のプログラムをよく確認して、受講科目の欠落がないよう、ご注意ください。なお、プログラムは講師の都合などのため一部変更される場合もあります。予めご了承ください。

1. 宇都宮クラス 山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ、高所（14 時間）

2013. 5.18 女性と山（1/3 時間、理論）

2013. 5.18 老人と山（1/3 時間、理論）

2013. 5.18 ハンディキャップと山（1/3 時間、理論）

2013. 5.18 山の有害生物（脊椎動物、1/4 時間、理論）

2013. 5.18 山の有害生物（無脊椎動物、1/4 時間、理論）

2013. 5.18 山の有害生物（植物、1/4 時間、理論）

2013. 5.18 有害ガス・電撃（1/4 時間、理論）

2013. 5.18 眼のトラブル（1/4 時間、理論）

2013. 5.18 口腔、顎、顔面のトラブル（1/2 時間、理論）

2013. 5.18 皮膚のトラブル（1/4 時間、理論）

2013. 5.18 高所 3（3 時間、理論、ワークショップ、2012 年度以降のエントリー者は必須）

2013. 5.19 ロープワーク（4 時間、実習）

2013. 5.19 フリークライミング（4 時間、実習、トレイルラン参加者は受講不要）
（8. を参照）

2013. 10.27 トレイルラン（4 時間、実習、フリークライミング参加者は受講不要）
（8. を参照）

2. 立山クラス 登山技術実技実習夏季など（25 時間）

2013. 7.13 登山個人装備（1 時間、実習）

2013. 7.13 ナビゲーション技術（4 時間、理論＋実習）

2013. 7.13 生存技術・疲労（2 時間、理論）

2013. 7.13 生存技術・疲労（2 時間、実習）

2013. 7.14 登山技術実技夏季（8 時間、実習）

2013. 7.15 沢登り（8 時間、立山、実技）（8. を参照）

3. 松本クラス 実践山岳外傷学（14 時間、全員必須）

2013. 8.3 実践外傷学（8 時間、実習）

2013. 8.4 実践外傷学・実践麻酔学（6 時間、実習）

4. 東京クラスⅠ 基礎理論学習 (19.5 時間)

- 2013.9.28 旅行医学 (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 国際感染症 (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 高所 1 (1 時間、理論、全員必須)
 - 2013.9.28 高所 2 (2 時間、理論+実習、全員要必須)
 - 2013.9.28 低体温症 (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 凍傷 (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 水難 (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 熱中症・日焼け (1 時間、理論)
 - 2013.9.28 小児 (1 時間、理論)
 - 2013.9.29 気象 (1 時間、理論)
 - 2013.9.29 栄養、水分バランスと疲労 (1 時間、理論)
 - 2013.9.29 携帯救急医療品 (1 時間)
 - 2013.9.29 法律問題・山岳保険 (1/2 時間、理論)
 - 2013.9.29 ストレス対策 (1 時間、理論)
 - 2013.9.29 関連持病・登山者検診ネットワーク (3 時間、理論)
循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患・内分泌・腎疾患と登山、登山者
検診ネットワーク
 - 2013.9.29 山のリスクマネジメント (1 時間、理論)
 - 2013.9.29 運動生理学 (1 時間、理論)
- 日にちを含めた予定変更はあり得ます。

5. 東京クラスⅡ 高所登山トレッキング医学・山岳救助実践 (12 時間、2012 年度以降のエントリー者は必須)

- 2013.11.17 遠征登山：現代ヒマラヤ登山トレッキング事情 (4 時間 理論)
 - 2013.11.17 高所・寒冷などに関する実践的山岳遭難事例検討 (4 時間 ワーク
ショップ)
 - 2013.11.17 国際的 relationship (4 時間 理論・ワークショップ)
- 日にちを含めた予定変更はあり得ます。

6. ハヶ岳クラス 登山技術実技実習冬季など (24 時間)

- 2014.1.18 低体温 (2 時間、理論+実習)
- 2014.1.18 凍傷 (1 時間、理論+実習)

2014. 1.18 雪崩 (4 時間、理論+実習)

2014. 1.19 登山技術実技冬季 (9 時間、実習)

2014. 1.20 アイスクライミング (8 時間、八ヶ岳、実技) (8. を参照)

7. 札幌クラスタ 救助技術と山スキー、スノーシュー (組織レスキューとの連携を構築する) (17 時間)

2014. (未定) 即興の救助技術総論 (1 時間、理論)

2014. (未定) 低体温症 (1 時間、理論)

2014. (未定) 即興の救助技術実践 (2 時間、実習)

2014. (未定) 組織救助技術実践 (2 時間、実習)

2014. (未定) ヘリコプターレスキュー (3 時間、理論+実習)

2014. (未定) 山スキー・ボード・スノーシュー (クレバスレスキューを含む) (8 時間、札幌、実習) (8. を参照)

8. 山岳スポーツ活動を経験する(上記予定に分けて組み込まれています)

2013.5.19 フリークライミング または 2012.10.27 トレイルラン (4 時間、宇都宮、実技)

2013.7.15 沢登り (8 時間、立山、実技)

2014. 1.20 アイスクライミング (8 時間、八ヶ岳、実技)

2014. 山スキー・ボード・スノーシュー (クレバスレスキューを含む) (8 時間、札幌、実習)

以上 1.~7.の合計時間 (最短) が国際山岳医資格を得るのに必要な履修課目です。
{国内山岳医資格のみの希望者は黒字で記載された研修の履修のみが必要で、赤字で記載された教程を履修する必要はないので、最短計 73.5 時間になります。}

VII 本コース受講前に満たしておくべき項目

・受講者は日本登山医学会会員に限ります。本コース受講前に入会しておいてください。

<http://www.jsmmed.org/pg43.html>

・受講者は本コース受講前に山岳保険 (冬山登山、岩登り、アイスクライミング、山スキーを行っている最中の事故にも適用出来るもの) に加入していなければならない。なお年度が替われば再加入する必要があることをお忘れなく。

・＜本コース受講中に満たしておくべき研修や講義＞

- ① 一次救命処置 (Basic Life Support; BLS)
- ② 二次救命処置 (Advanced Cardiovascular Life Support ; ACLS)
- ③ Immediate Cardiac Life Support (ICLS)
- ④ Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care (JPTEC)

山岳医資格申請時には、上記①+②+④、または③+④の有効期間内のプロバイダー資格、もしくはインストラクター資格の証明書を提示することが求められます。

VIII 認定試験

各クラス終了後認定試験を行います（登山技術その他の実習の試験には、講習の最中や終了前の実技試験も含まれます）。クラス終了後のペーパーテストには、多枝選択式と記述式の設問を行います。

IX 参考図書

「登山の医学ハンドブック第2版」、「High Altitude Medicine & Physiology 4th edition」、
「全図解レスキューテクニック 初級編／堤 信夫」、「イラスト・クライミング／阿部亮樹」、
「山岳遭難救助技術マニュアル3【山岳救助組織従事者編】」、
「ガイドマニュアル 山岳ガイド編」、「ヤマケイテクニカルシリーズ（読図、気象、登山医学、レスキュー、クライミング、沢、BC、etc）」

公式情報サイト：UIAA Official Standard

http://www.theuiaa.org/medical_advice.html

X 費用

（１）受講料

受講生は各クラス受講前に定められた受講料を支払うこととする。ただし「8. 山岳スポーツ活動を経験する」については、それが含まれる4つのコース毎に受講前に支払うこととする。

（２）宿泊費

宿泊費や食費は原則受講料に含まれません。各自の負担で宿泊先や食事を予約して下さい（こちらで宿泊先を紹介出来るときは、事前に連絡致しますが宿泊費は各

自負担です)。同様に交通費も各自負担です。

(3) 受講登録料

受講登録料として応募申請時に10000円を日本登山医学会山岳医委員会（日本登山医学会事務局内）に支払っていただきます。

(4) キャンセリングポリシー

受講登録料はお返しできません。各コースの受講料も原則的にはお返ししません。但し、もっぱら運営者側の責任によりクラスタが受講出来なくなった場合は、そのクラスタの受講料はお返しします。

XI 受講修了

本コースは5年以内に修了することが義務づけられます。期限を過ぎた場合、それまでの研修会受講は無効となります。受講料の返還はありません。国内山岳医資格取得後に国際山岳医資格の取得を希望した場合、国内山岳医受講申請時より5年以内に必要単位を取得すれば、国際山岳医資格を取得することが出来ます。認定に関する質問は dimm01@jsmmed.org へお願いいたします。

XII 各講習の登山装備

スキー、スノーボード、スノーシューを含む全ての登山装備は、各人で予め用意して講習に臨んで下さい。

XIII 資格更新

認定山岳医資格を取得した方は、その資格更新のために5年毎に、別途提示される”認定山岳医資格更新プログラム”に従い所定の単位を取得する必要があります。ただし、2010年度資格取得者および、2011年度資格取得者は、2013年度より2017年度までの間に上記単位を取得すればよいこととします。

付記：最低限の登山技術

- ・ 夏季：結び方とその使用法；ダブルフッシャーマン、エイトノット、プルージック、クローブヒッチ、ハーフクローブ（ムンター、イタリアン）ヒッチ、ハーネスへのロープの結び方；アンカーの作り方；確保；下降器およびプルージックを用いた懸垂下降；プルージックを用いた固定ロープの登行；UIAA 3 級の岩場のフォローアーとしての登攀；ヘリコプター避難のための着地場所の準備；地上から空中への手信号。
- ・ 冬季：アイゼンを用いた氷河徒行と氷上歩行；雪と氷に適した様々な技術を用いた確保；簡単なアイスクライミング；単純なプーリーシステムを用いた即興のクレバスレスキュー；トランシーバー（雪崩ビーコン）とプローブを用いた雪崩埋没者の捜索、埋没者の掘り出しと救助の準備。

申込は、以下の JSMM ホームページの日本登山医学会認定山岳医エントリーフォームから、別紙申込用紙も添付の上、行なってください。

http://www.jsmmed.org/dimmjpn_entry.html

日本登山医学会認定山岳医実行委員会

日本登山医学会事務局内

〒101-0034 東京都千代田区神田東紺屋町 36 サンハイツ神田北村ビル 507

電話 03-6869-0510 FAX 03-6868-6484

E-mail: dimm01@jsmmed.org

<http://www.jsmmed.org/pg69.html>